

生命科学研究所 生命科学専攻
(修士課程)

研究科及び専攻の目的
生命科学の急速な進展に対応できる広い視野を持って生命体の分子機構の解明を志し、高度の専門知識及び研究能力を有する人材を育成する。

2020年4月1日

カリキュラム・ポリシー(抜粋)
修士課程においては、学士課程で養った教養、基礎学力、専門知識を基礎として、さらに「専門科目」「一般教養科目」「研究指導」により、生命科学に関する幅広い学識と倫理観、国際的視野を備え、高度な専門知識と研究開発能力で社会に貢献できる人材を育成するための教育課程を編成する。
(1)「専門科目」では、高度な専門知識を身に付けるため、専門分野ごとに特論を配置するとともに、生命科学諸分野の課題を論理的に把握できるよう、分野共通の講義、演習を配置し、最先端の知識を体系的に理解する教育を行う。
(2)「一般教養科目」では、専門科目で身に付けた高度な専門知識を社会に役立てるために、幅広くかつ深い学識を涵養する授業科目、コミュニケーション能力・倫理観・国際性等を養う授業科目を配置し、専門分野に偏らない広い視野を養う教育を行う。
(3) 研究指導の過程では、自身の研究活動や指導教員等研究者との議論により高度な技術を習得し、研究開発能力を高めるとともに、「専門科目」、「一般教養科目」で身に付けた知識・知見及び倫理観を融合し、広い視野を持って課題を発見・設定し、解決できる能力を養う。また、演習における研究発表・討議及び学会等での発表を通して、自身の研究成果を国内外で正確かつ効果的に表現する能力を養い、国際的な視野を持って科学文化の啓発及び普及に貢献できる教育を行う。

ディプロマ・ポリシー(抜粋)
修士課程においては、生命科学に関する幅広い学識と倫理観、国際的視野を備え、高度な専門知識と研究開発能力で社会に貢献できる人材の養成を目的とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力等を身に付け、生命科学専攻で定める所定の単位を修得し、かつ、修士の学位論文又は特定研究の成果の審査並びに最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、修士(理学)の学位を授与する。
(1) 生命科学における最先端の知識を体系的に理解し、それに基づいて生命科学諸分野の課題を論理的に把握できる高度な専門知識。
(2) 生命科学における高度な技術を習得することで、これを駆使して、生命科学諸分野の課題の解決に貢献できる研究能力。
(3) 生命科学における最先端の知識、高度な技術及び倫理観と、他分野の知見を融合し、広い視野を持って自ら課題を発見・設定し、解決できる能力。
(4) 科学文化の啓発及び普及に貢献するように、国内外に広く研究成果を発信できるプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力。

